

大田区立蒲田中学校第三学年国語科休業中の課題⑧

新聞の社説を比較して読もう 【目標】二つの社説を観点ごとに読み比べよう

三年 組 番名前) ()

1 教科書124～125ページの二つの社説をそれぞれの観点ごとに読み比べ、気づいたことを書こう。
 (教科書126ページの例を参考にして、記入してください。横書きで書いてください。)

	社説 A	社説 B	気づいたこと
見出し			
主張			
事例の取り上げ方			
論理の展開			
表現・語句			

三年生の皆さんは、都立高校の受験に向けて、7月には、模擬試験があると思います。都立高校の受験問題とそっくりなテストなので模擬試験というのです。

答は全部記号式マークシート方式なのですが、長文読解で、時間内に答えるのがとても大変です。さらに、設問4が、説明文で、問五が二百字の作文になっています。

ここに過去問を準備しましたので、挑戦してみてください。**時間は、二十五分です。**

国・13・公・東京・問-04

4 次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。(＊印の付いている言葉には、本文のあとに「注」がある。)

住居には生活の場としての造形的機能があり、かつ歴史的経過が人間の生活様式に変化をもたらし、物理的に風土の影響も受ける。ヨーロッパにおける建築空間を日本の建築空間と比較してみたとき、外部空間からも、また内部空間の造形にも、日本の造形空間とは異なった特質が見られる。⁽¹⁾そこには、東洋的文化とヨーロッパ的文化の相違からくる本質的なものがそれぞれに秘められている。(第一段)

自然の風物を愛し、親和感をもつ生活意識が育^{はぐ}まれてきた日本には、居住空間を自然のなかに埋めこんで、あるいは自然に抱擁されて暮らそうとする心情が強くなるかがわれる。それに対してヨーロッパの建築は外部空間と内部空間とを画然と区切り、内と外との生活環境を異なるものとしている。それは風土的に自然の厳しさから人間の生活を守るため、最も力強い機能をもたせるものとして「住居」を考えているからである。このことは建物の材料、構法からも理解できることで、冬の厳しさに対しては、屋根や周壁の構造を厚壁にすることにより、自然の厳しさに対する生活の防衛がなされている。ヨーロッパ諸国は、日本のように国土を全部海によって囲まれているわけではなく、隣国と地続きで国境をもっているとなれば、国防の問題もある。石の造形によって恒久性のある建物をつくるということは、何にも増して生活には必須^{ひつす}の条件であり、生存する上での重要な要素とも考えられる。(第二段)

そこにヨーロッパの人たちの居住に対する意識が促進されて、古代から中世・近世を通してその建築空間は構造的にも開発が進み、造形的芸術性と建築工学的科学性とを備えもって、現代人を驚かすほどの芸術的価値を秘めながら、近代建築の完成へと前進したのである。造

形空間における芸術性は、教会堂建築をはじめ、宮殿や城館、また多くの公共建築を世に遺^{のこ}しており、その科学性は西欧・北欧にみられる地域暖房の設備などによっても認めることができる。またヨーロッパでは石が素材となり、日本では木を素材として居館が建てられて、豪華な生活文化が築かれている。その顕著な事例としてベルサイユ宮殿と^{＊しゅうがくいんりきゅう}修学院離宮とを取り上げ、比較してみた。(第三段)

ベルサイユ宮殿は一六六一年から一七〇八年にかけて、ほとんど半世紀を費やして、ルイ十四世の構想に基づいた計画で建設されたものである。このころ一六五九年、日本では^{＊ごみずのおじょう}後水尾上皇が修学院離宮を造営している。雄大豪華なスケールの構想は、いずれも帝王にのみ許されるものである。一般庶民には及びもつかぬ、実現不可能とさえ思えるものである。しかし、この双方の建物は、共に自然との深いかわりをもっている。その自然とのかわり方に相違が見られるのである。ルイ十四世の構想には「自然を支配する」という考えが根底に、はっきりと固まっています、それが建築の構想に表れている。後水尾上皇の構想は「自然と共に暮らそう」とするものであって、自然に対する対立観はない。(第四段)

フランス貴族の当時の生活は想像以上に華麗優雅なもので、日常生活それ自体が豪華なものであったと考えられる。ルーブル美術館所蔵の名画にもそれが偲^{しの}げられ、その贅^{ぜい}を尽くした居住空間は洗練された美感覚に基づくもので、家具のデザインや室内装飾の至る所に顕著に現れている。居住空間の構成にも最高度の住文化が醸成されている。邸館を市街地と田園との間に位置させるという考え方は、イタリアにも見られ、ミケランジェロ(イタリアルネサンスの彫刻家・建築家・画家)の構想にもある。大規模な庭園によって、自然と一体になるように設計された住宅建築には、ヴォー・ル・ヴィコント館(パリ南東郊外にある大邸宅)などもよい事例であるが、ベルサイユ宮殿はこれをさらに大規模なものにしたと考

えられる。(第五段)

パリの南西一八キロメートルに位置するベルサイユ宮殿は、パリと直線道路が通じていて、この庭園計画は後世における都市計画に大きな役割を果たしている。このことは都市計画の基盤となるような構想をもつていたと考えられ、ルイ十四世の並々ならぬ先見性を知ることが出来る。政治と個人生活とを巨大な造形空間に統合させようとしたことは、帝王の構想として他に類例をあまり見ない新しい居住文化への試みであったかもしれない。(第六段)

わが国における後水尾上皇の修学院離宮の構想も卓越したものであるが、政治を離れた＊いんとんせいかつ 隠遁生活の要素が多分に含まれていて、自然へ復帰しようとする意図を強く感じる。その意味で修学院離宮は、政治的な要素を全くもたない、自然の姿そのままに居住空間も構成されている。年代を同じくする頃に、東と西とにたまたまこのような「建築と庭園をもつ造形空間」がつくられていたということに興味を魅ひかれる。そしてヨーロッパには石の館、日本には木の館がけんらんとうか 絢爛豪華に建設されて、それぞれの文化を築いている。(第七段)

人間を含めた三次元空間として建築を特徴付けることを主張している*ブルーノ・ゼヴィは、建築の内部に人間が生活する巨大な中空の造形的空間をもつことの必要性を述べている。現代における建築空間は、広さと高さなどの要素だけで成り立つものとは考えられない。人間の動き、暮らす、という行為には、建築空間の内部を、人間の要求する空間として構成することが必要なのである。²⁾ 空間に総合的な実存性を与えるのは、人間そのものにほかならない。壁に囲まれ屋根に覆われている「内部空間」が、建築物の主体となって機能することが求められるのである。(第八段)

建築物の構造的な美しさは、造形的要素として人間を惹き付ける。人間に精神的な感動を与えるような建築こそ高度の価値をもつものといえる。造形的な内部空間をもたない建築はありえないが、あくまでもその内部には人間の生活があり、行動が展開される。「空間は建築の初めであり、終わりである。」ということを経験家はよく言っているが、その意味を建築の価値についてみれば、それは空間的価値、すなわち、構造体全体のさまざまな総合的価値(経済的・社会的・技術的・造形的・装飾的価値)として考えることができる。現代の建築空間は、

ガラスと鉄とコンクリートを主な構造材として、かつてのゴシック建築の垂直の方向か性を求めながら、自由な造形プランの上につくられる建築的空間と言うことができる。その造形空間を機能的に使いこなすだけの人間の生活行動力が働いているかどうかと考える。(第九段)

人間の居住する空間は、そこにおいて生活する人間に有機的な居住生活を期待するのである。人間の現代における生活を基盤として、生活行動に対応できるような建築空間を求めることができるのであれば、人間の行動の多様性は、その生活空間にもいろいろな多様化を求めることになる。現代人の生活行動がますます広がりをもつ時代であるだけに、人間の行動を基底にする生活空間から「居住」ということは追求されるべきものと思う。³⁾ そこにこれからの居住文化の発展もあるものと考えられるが、それと同時に前時代の遺構となつている建築がその基盤となつて、文化的機能を果たしていることも忘れてはならないと思う。(第十段) (佐藤京子「居住の文化誌」による)

〔注〕 修学院離宮 ― 江戸時代に造営された京都にある離宮。

こみずのおむすしゅう 後水尾上皇 ― 江戸時代の上皇。

いんとんせいかつ 隠遁生活 ― 一般の社会から逃れて生活すること。

ブルーノ・ゼヴィー ― イタリアの建築史学者。

問1 ¹⁾ そこには、東洋的文化とヨーロッパ的文化の相

違からくる本質的なものがそれぞれに秘められていて、とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア ヨーロッパにおける建物の材料や構法などには、自然に抱擁されて暮らすための工夫がなされているということ。

イ ヨーロッパの歴史的経過や風土の影響によって形成された生活を守る意識が、建築空間の外部にも内部にも込められているということ。

ウ ヨーロッパと日本の建築空間を比較すると、人間の生活を自然の厳しさから守るための手段の違いが外部に反映されているということ。

エ ヨーロッパと日本の住居を歴史的に比較すると、生活の場としての造形的機能について全く異なった特質が含まれているということ。

問2 空間に総合的な実存性を与えるのは、人間そのもの

にほかならない。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 建築空間の内部の造形において、人間の生活や行動の展開に適した空間を構築することは人間にしかできないことだから。

イ 壁に囲まれ屋根に覆われている内部の造形において、さまざまな構造材を用いて構成することは人間にしかできないことだから。

ウ 建築を特徴付ける三次元空間において、造形的な内部空間をもたない建築に価値をもたせることは人間にしかできないことだから。

エ 高度の価値をもつ現代の建築空間において、広さと高さなどの要素を建築物全体に反映させた造形は人間にしかできないことだから。

問3 この文章の構成における第七段の役割を説明し

たものとして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 修学院離宮の歴史的価値をベルサイユ宮殿と同様に紹介するとともに、それまでの具体例を整理して話題の転換を図っている。

イ ベルサイユ宮殿と修学院離宮が同じ年代につくられた理由を解説するとともに、それまでの内容について自説の妥当性を強調している。

ウ 修学院離宮の特徴を挙げて浮かび上がった新たな問題を整理するとともに、東西の建築素材を示して論を新しく展開させようとしている。

エ それまでに述べたベルサイユ宮殿に対する修学院離宮の特徴を説明するとともに、建築と庭園における東西の違いについてまとめている。

「都立高校国語の二百字作文の書き方」 要注意

しっかりと読んでおいて、模擬試験に備えましょう。

問5 国語の授業でこの文章を読んだ後、「住居と人間」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を、具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「なども、それぞれ字数に数えよ。

①この文章を読んだ後 ということは、この文章の作者の考えを踏まえて書くということになります。したがって、この文章の中で、作者が最も強く主張している部分を引用することが大切になります。まず、読解力が問われるということです。そこに線を引きます。そして、「作者が・・・と述べているが、私も・・・」と書き進めていく形になります。

②「住居と人間」というテーマということは、この文章の中心になります。このテーマから、はずれないことです。

③自分の意見を発表すること とありますから、自分の意見をしっかりと発表することが大切になってきます。「～すべきだと考える」。とか、「～することが大切だと考える。」

④具体的な体験や見聞も含めて をいかに素早く考えることができるかということが大切になってきます。②テーマ・①作者の意見・③自分の意見 とあった④体験や見聞ですから探すのが大変です。

⑤十分間で書かなくてはいけないということです。練習が必要です。休業中の課題として、じっくり取り組んでみてください。